

2014年2月24日

ご購入いただきました【実践 妊娠と薬 第2版】（2010年12月15日発行）におきまして、以下の誤りがございました。
ここに訂正させていただきますとともに、深くお詫び申し上げます。

■474ページ：文献 8) の引用ページの訂正

誤
Briggs GG, et al : Drugs in Pregnancy and Lactation ; A Reference Guide to Fetal and Neonatal Risk, Lippincott Williams & Wilkins, pp1711-1713, 2008
正
Briggs GG, et al : Drugs in Pregnancy and Lactation ; A Reference Guide to Fetal and Neonatal Risk, Lippincott Williams & Wilkins, pp1788-1791, 2008

■640ページ：上から13行目、18行目、25行目の文献番号の訂正

炎症性腸疾患治療薬

較したレトロスペクティブな調査では、潰瘍性大腸炎妊婦においてはいずれの薬剤も、クローン病妊婦においてはサラゾスルファピリジンで、対照群の炎症性腸疾患の妊婦に対して胎児の併発症の増加なしに投与可能であったと報告されている⁶⁾。

- 潰瘍性大腸炎の97例の婦人の妊娠の経過に関する調査報告がある。先天奇形および新生児高ビリルビン血症の発生頻度は、健康な母親の児に比して増加しなかった。また、サラゾスルファピリジン、サラゾスルファジミジンおよび糖質ステロイドによる治療は、妊娠の経過と結果に何ら影響を及ぼすことはなかった。この報告の著者らは、妊娠により潰瘍性大腸炎に対する通常の治療手順を変更する必要はないと結論している⁷⁾。
- 潰瘍性大腸炎およびクローン病治療中の妊婦のサラゾスルファピリジン服用は安全であると示唆した報告がある。また、本剤の母乳移行はわずかなので、核黄疸を起こす危険度は非常に小さいと結論している。また、必要であれば妊娠期間を通して、あるいは授乳中も本剤使用が支持されるとしている。しかし、早産児および溶血性疾患児などのハイリスク群においては前述の結論はあてはまらず、今後の調査が必要であると述べている⁷⁾ → **8)**
- 本剤を服用した209例の妊婦に関する調査では、新生児黄疸の危険度は増加しなかったと報告されている。また、核黄疸の兆候もみられなかった⁴⁾。
- 複数の報告を併合解析したレビュー論文では、潰瘍性大腸炎妊婦とクローン病妊婦における転帰はそれぞれ先天異常が13/1,155例(1.1%)と4/388例(1.2%)で、一般的集団における期待値と類似していた⁸⁾ → **9)**

その他

出産直後の新生児のスルファサラジンとスルファピリジンの濃度は各々 $4.6 \pm 3.1 \mu\text{g/mL}$ 、 $18.2 \pm 8.7 \mu\text{g/mL}$ であったと報告されている。スルファサラジンの最終投与から血液採取までの時間間隔は24時間以内であった。スルフォアミド系薬物(特に長時間作用型)は、新生児においてアルブミン結合するビリルビンと競合し核黄疸を引き起こすおそれがあることが知られている。しかし、新生児におけるスルファサラジンとスルファピリジンの濃度ではビリルビンの置換を著しく起こす結果に至らなかった。それゆえ、スルファサラジンは新生児に対するリスクなしに分娩時まで投与できる可能性がある⁹⁾ → **10)**

■642ページ：文献の訂正・追加

7) Craxi A, et al : Possible embryotoxicity of sulfasalazine. Arch Intern Med, 140 (12) : 1674, 1980

9) ← 8) Järnerot G : Fertility, sterility, and pregnancy in chronic inflammatory bowel disease. Scand J Gastroenterol, 17 (1) : 1-4, 1982

10) ← 9) Järnerot G, et al : Placental transfer of sulphasalazine and sulphapyridine and some of its metabolites. Scand J Gastroenterol, 16 (5) : 693-697, 1981

7) :文献訂正

7) Nielsen OH, et al: Pregnancy in ulcerative colitis. Scand J Gastroenterol, 18(6):735-742, 1983

8) 文献追加

8) Esbjörner E, et al: Sulphasalazine and sulphapyridine serum levels in children to mothers treated with sulphasalazine during pregnancy and lactation. Acta Paediatr Scand, 76(1):137-142, 1987